

## 沼のほとりで

旭川市医師会  
とくひろ整形外科クリニック

とくひろ  
徳廣

あきら  
聡

趣味は？と聞かれると困ってしまう。

格好よく「音楽鑑賞です」とか、「美術館巡りです」とか言ってみたいが、根っからの運動部体質で文化の香りは全くなし。「家庭菜園づくり」とか「DIY」も楽しそうとは思うけど縁がない生活をしている。

昭和の時代なら「仕事が趣味です」でごまかすこともできたが、令和の時代では死語ですね。

じゃ何もしてないかということ、実はゴルフにはまっている。

50歳を過ぎて、仕事が少し落ち着いて、休日に何かやろうという気力と体力が戻ってきたときに、地元医師会のゴルフクラブの勧誘が目にとまって参加したのがきっかけだった。

それならゴルフが趣味かということ、ちょっと違う感じがする。

趣味というのは、十分に時間をかけて、自分一人で没頭できるもので、なにがしかクリエイティブな要素があるもののように思っているがいかがでしょう。

ラウンドは一人ではできないし、好きな時に始めて勝手に終わることもできない。

何かを作り出すかといえば、ミスショットした時の後悔とたまにある思いがけないナイスショットの快感くらいである。

ここで私がどのようにゴルフ沼にはまっていったかを振り返って見よう。

自己満足の沼：最初はちゃんとレッスンプロに習うのが絶対良いです。習うにしても少し打てるようになってからにしようという変なプライドがあって、自己流で始めたのが沼の入り口だった。不思議なものでヘンテコなスイングでも、練習場で打ち続けていると学習効果が出て、そこそこのいい球が出るようになるんですよ。そうすると「よし、つかんだ」とか「うん、うまくなっている」と錯覚してしまう。たくさん練習すればうまくなると信じて、「質より量」という沼にはまっていった。

頭でっかちの沼：どうにか打てるようになってくるとナイスショットはないけど、とんでもないミスは減るので、スコアはよくなってくる。そうすると、脳内の報酬系が活性化されて楽しくなってくる。100を切るくらいになると「昇り龍」とかおだてられて、もしかしたらシングルプレーヤーになれるかも？と勘違いしてしまう。そうすると、ゴルフ雑誌

を読んだり、ビデオを見たりして勉強もする意欲も湧いてくる。だけど雑多な知識が入りすぎると、スイング中のチェックポイントを考えすぎて、スムーズに動けなくなってくる。体の半分くらいが沼にはまって動きが取れない状態になり、何も考えずに気楽にやっていた時よりもゴルフが重くなって、このままでは沈んでしまうと気づくのに数年を要した。あたりまえだけど「知っている」は「できている」ということはではないと学ぶ。

沼の神様：ゴルフ沼には金の斧を持った神様がいると思う。どんなに調子が悪い時でも、またひどいショットをした時でも、思いがけず良い結果につながることもあるのだ。チップインでパーを拾ったり、とんでもない長いパットが入ってバーディーを取ったりなんてこともある。これはもう神様がくれたご褒美としか思えないのです。この時の快感たるや、そりゃ思わず派手なガッツポーズも出ますわ。「だからゴルフはやめられないね」とさらにはまっていく。成功体験が忘れられなくて、同じような状況の時には欲を出して無理をすると、ほとんどの場合は散々な結果が待っている。ゴルフの神様は欲張りには無慈悲です。

その後、レッスンを受けることもしたけど、ヘンテコスイングはなかなかの難敵で、いったん脳内にプログラミングされた動きは簡単には直せないのだ。時すでに遅し、今では目標を「下手を固めること」と悟りを開いたような心境です。

ただうれしいことに経験を積むと、グリーン周りの技術がうまくなり、スコアも落ち着いてくる。もっと高いレベルを目指すとなると、ドライバーの飛距離とか、長いクラブの正確性が必要となるが、オジサンゴルファーではそこは難しい。一緒にラウンドする上級者が、「昔はもっと距離が出たのに、今は飛ばない。寂しい」というのを聞くことがあるが、もともと飛んだことがないので、その辺は気にならないので幸せだ。

この先は年々衰えていく体力と、小技でしのぐ老練さとのせめぎあいと思っている。

数年前には、ゴルフ沼にはまりすぎて家人からお叱りを受けた。それからは時々沼からでて、ほとりに立って周りを眺めるように心がけている。

こうしてみると適当に遊びながらも、結構頭も使っているし、人生に通じる教訓も学ばせていただいているようだ。

趣味は？と聞かれたら、「フェアウェーを歩きながら、人生について考えること」とでもしましょうか。